

公立学校教員採用試験対策

筆記試験

一般教養

教員志望者全員を対象に教育公務員として必要な一般的な教養(常識)を問われるものです。科目は自然・人文・社会の各分野で中学・高校の教科書に相当する程度の出題が多いので、基本事項を復習しておくことが必要です。

一般教養試験の実施を明記していない県もありますが、小論文をもってそれに当てるところもありますので、志望県の試験方法、内容を調べ、早めに対策を立ててください。

試験はコンピュータ処理による問題(マークシート方式、主に一般教養・教職教養)を実施するところが増えてきています。

教養試験

教員として当然必要とする知識の理解度をみるものです。

出題範囲は、教育原理・教育心理・教育史・教育関係法規・学習指導要領・教育時事などです。中でも教育法規の出題が多く、教育原理・教育心理なども常に出題されていますので、注意することが必要です。なお、学習指導要領はよく勉強しておく必要があります。

専門教養

受験する学校種別(小学校・中学校・高等学校・特殊学校)や免許教科別に行われます。教科についての専門的知識と教科教育方法についての知識と理解をみるための試験です。設問が平易であっても教員採用試験という前提を忘れないようにしてください。

論文・作文

筆記試験ではつかめない表現力、考察力、指導性、人間性をみるものです。

テーマは多岐にわたり、制限字数は400字ぐらいから1500字、試験時間は30分から2時間まで、都道府県によって違います。

日頃から、根拠を明らかにして論理的に文章を書くトレーニングをしましょう。そのためにも、卒論やゼミ論に是非、取り組んでください。小手先のテクニックを身につけても通用しません。自分なりの教育哲学をしっかりと持つことが必要です。

実技試験

知・徳・体のバランスのとれた教師を採用するために実施され、最近では重視されてきています。

小学校

音楽(ピアノ・歌唱など)、体育(水泳・ボール運動・鉄棒など器械運動)

中学校

英語（ヒヤリング・英会話）、実技（体カテスト、パソコン操作）

高等学校

英語（ヒヤリング・英会話）、書道、商業、その他

校種・教科に関係なく水泳や体カテスト・パソコン操作を実施する県も増えていますので、志望県の試験内容を早めに調べ、準備をしておきましょう。

英語の実技例（すべて、英語で応答）

- ・ 自己紹介しなさい
- ・ どうして教師になりたいのか
- ・ なぜ英語を勉強しなければならないのか？と生徒に質問されたら？
- ・ 家族構成
- ・ クラブ活動について
- ・ 小論文で何を書いたのか
- ・ 不登校生徒について
- ・ いわゆる bad student について
- ・ 長所と短所
- ・ 学習指導要領について

面接

優秀な人材を確保する方策として、筆記試験から人物評価重視の方向へ動いています。

面接試験の面接官に保護者代表や、企業の人事採用担当者などの民間人を多数の都道府県で起用していることは、「人物重視」を教員採用の重点にしている証拠です。従って、相応の対策と心構えを持って面接に臨むことが大切です。

面接官の評点の主な観点

- ・ 教育に対する考え方
- ・ 人格の形成
- ・ 教師としての素養
- ・ 教員としての能力

主な面接形態

- ・ 個人面接（面接官は通常 2～3 人、自己アピールを入れる県がある）
- ・ 集団面接（面接官 2～5 人に対し、受験者 5～10 人程度で個人・同一質問）
- ・ 集団討論（与えられたテーマについて、受験者同士でディスカッションを行い、面接官は観察）

や評価をするのみ)

注意点

模擬授業（面接官 3～5 人、5～10 分、与えられたテーマについて行う。最近、実施県が増えている）

適性検査

教員として、特に要求される人格特性を診断し、合否判定の一助にしようとするもので、実施するところが増えてきています。実施している県市の大半が内田クレペリン精神検査を採用しています。そのほか YG 性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）、MMPI（ミネソタ多面的人格目録検査）などが行われています。適性検査はこれまでの傾向を見る限り、性格検査ですので、事前に練習や学習を積んだからといって、極端に検査結果が変わるものではありません。ありのまま、素直に指示通りに作業し、答えればよいでしょう。

アドバイス

教員採用試験の受験対策のために何が必要か（参考）

1. 辞典・事典
 - ・教育小六法
 - ・学習指導要領
 - ・教育キーワード事典
2. 問題集
 - ・都道府県別過去問題集
 - ・教職教養の問題集
 - ・専門教養の問題集
3. 参考書
 - ・教職教養の参考書
 - ・専門教養の参考書
4. 教職セミナーへの参加
 - ・詳細はホームページもしくは窓口にて確認すること。
5. その他
 - ・教員養成セミナー 月刊誌
 - ・教職課程 月刊誌

受験対策 5つの秘訣

1. 新聞から教育問題に関するトピックをまとめる。
2. 教職セミナー、講座に積極的に参加する。
3. 学習指導要領「総則」は暗記するまで読む。
4. 受験県の情報収集を行う。
5. 受験雑誌等で最新情報や合格体験記に目を通す。